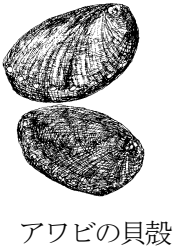


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意		および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
せー15	せっけつめい 石決明	鹹・微寒 肝・肺	9～30g、煎服。
中医生薬解説			
		平肝潜陽	肝陽上亢の眩暈に、菊花・枸杞子・生地黄・白芍・女貞子などと用いる。 熱極生風（肝熱風動）の痙攣に、釣藤鈎・夏枯草・菊花などと用いる。
		退翳明目	肝火による目の充血、腫脹、疼痛や角膜混濁、羞明などに、菊花・桑葉・谷精草などと用いる「石決明散」。 肝腎陰虚による視力減退には、熟地黄・山茱萸などと用いる。
		その他	清虚熱にも働くので、陰虚の骨蒸勞熱に、地骨皮・青蒿・知母などと用いる。
		参考	石決明の瀉肝火の効能は羚羊角に及ばないが、補肝陰にも働き平肝潜陽、明目の要薬である。 肝熱風動の驚風抽搐には、大量の石決明で羚羊角の代用としたり、羚羊角と同時に用いて効果を增強する。
		使用上の注意	湯剤には先煎する。 鹹寒で脾胃を損傷するので、脾胃虚寒には禁忌である。